

経尿道的膀胱腫瘍切除術説明書および承諾書

患者氏名： 殿

1. 病名： 膀胱腫瘍

2. 現在の症状

- ① 腫瘍から出血して尿が赤くなる（血尿）
- ② 頻尿、排尿痛などの膀胱刺激症状
- ③ その他

3. 手術の必要性

膀胱腫瘍は悪性の腫瘍（癌）であることが多いので、まずは内視鏡手術で腫瘍を切除する必要があります。膀胱腫瘍が疑われながら、内視鏡にて明らかな隆起性の腫瘍が見られない場合には、膀胱粘膜の組織を採取（生検）します。

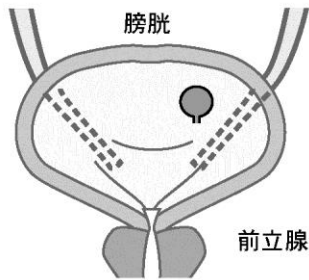
4. 手術の方法

- 1) 手術予定日：令和 年 月 日、手術時間 約 1～1.5 時間
- 2) 予定手術：経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）
- 3) 麻酔方法：全身麻酔または腰椎麻酔（麻酔科医）
- 4) 手術の方法とその特徴

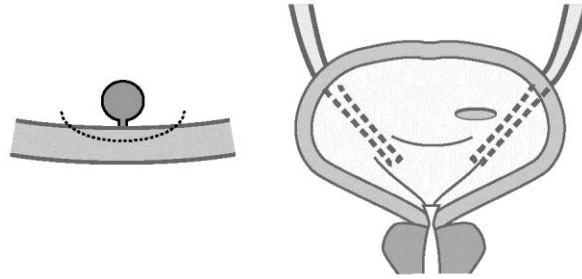
尿道を通して内視鏡を膀胱内に挿入し、腫瘍を電気メスで削り取る手術です。腫瘍の根が浅い場合は根治的治療となります。根が深い場合でも今後の治療方針を決定するのに必要な手術です。必要に応じて、明らかな腫瘍のない部位からも膀胱粘膜を採取（生検）することがあります。

腫瘍の根が浅い場合

TUR-Bt前

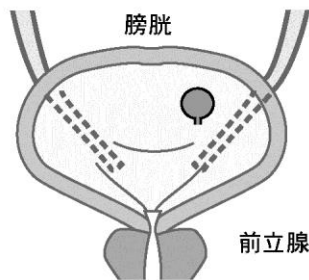


TUR-Bt後

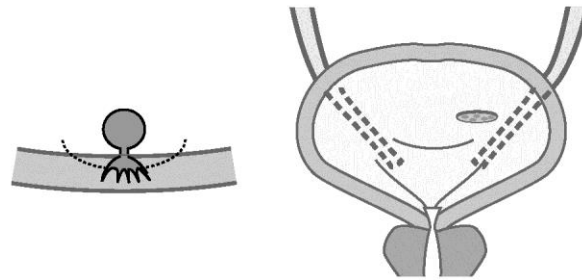


腫瘍の根が深い場合

TUR-Bt前



TUR-Bt後



5. 手術に伴う危険

- 1) 出血：術中・術後出血することがあります。まれですが、輸血が必要となる場合や、術後出血がおさまらないときは、再度手術室にいき、止血手術をすることがあります。
- 2) 感染症：腎や前立腺、精巣上体に炎症がおこり熱や痛みが長引くことがあります。抗生物質などで治療をすることがあります。
- 3) 後出血：術後数週後に血尿がでることがあります。その時点で退院してしましたら、外来を受診して下さい。
- 4) 尿道狭窄：手術をして数カ月してから尿道が狭くなり、尿が出にくくなることがあります。尿道を広げる処置が必要になることがあります。
- 5) 膀胱穿孔：腫瘍を切除するときに深く削りすぎて膀胱に穴があくことがあります。たいてい1週間ほど尿のくだを入れておけば、膀胱にあいた穴は自然にふさがります。しかしときには途中で手術を終了せざるをえなかったり、膀胱の穴から漏れた液や尿を排出するためのくだを入れるために、お腹を切開することがあります。

6. 通常は起きない重篤な合併症

- 深部静脈血栓症・肺塞栓症：手術中は身体を動かさないため、血流が滞り、血栓ができやすい状態になっています。極めて稀ですが、足などにできた血栓が身体を動かした際に肺の血管に詰まり、呼吸不全や循環不全を起こして死に至る可能性がある肺塞栓症がおこることがあります。
- 下肢静脈血栓予防措置に伴う血流障害：手術中、必要に応じて下肢静脈血栓の予防のため、下腿を定期的に自動で圧迫する装置を取り付けます。これは上記の肺塞栓症などの重篤な合併症を予防するために必要な処置ですが、極稀に圧迫により部分的に皮膚や筋肉の血流が悪くなり同部位の壊死や神経障害をひきおこしてしまうことがあります。
- その他：非常に稀ですが、手術中や手術後に心筋梗塞、脑梗塞、脳出血などの予想できない問題が起こることがあります。すばやく原因をつきとめ最善の対応を行います。重篤な経過をたどる可能性や死亡の可能性もあります。

7. 手術後の経過

手術後には点滴と尿を流すくだ（カテーテル）が入ります。

- 点滴：通常1日から数日で抜けます。
- 尿のくだ：通常数日から1週間以内に抜けます。膀胱の中にくだから水をながして血が固まらないようにすることがあります。
- 安静度：手術を行った日はベッド上安静ですが、翌日からは歩行可能です。
- 食事：5時間後飲水可能となり、翌日からは普通の食事です。
- 痛みや熱、頻尿、血尿：時にみられますが、通常は数日で止まります。
- 退院：通常手術の1週間以内に退院できますが、追加治療が必要な場合などには入院期間が長くなることもあります。

取った腫瘍は薬液で固定し、顕微鏡で観察してどんな性質のものか判断します。顕微鏡でみた結果はおよそ1週間後にわかります。

追加の治療には膀胱内に薬を入れる治療、膀胱を摘出する手術などありますが、治療方針は手術後に結果がそろってからお話しします。

8. 可能な別の治療法

手術で腫瘍を切除あるいは生検しない限り、良性、悪性の最終診断が不可能です。

9. 特記事項

手術翌日に抗癌剤膀胱内注入療法 有 ・ 無

膀胱癌の再発予防の目的で手術後 24 時間以内に抗癌剤（マイトマイシン）を膀胱内に注入する治療を行なっています。血尿の程度が強かったり、膀胱穿孔が疑われる場合には中止することがあります。

- * 上記内容に関して説明を受け、質問する機会があり、理解された場合には、下記に本人、または代諾者の署名あるいは記名・捺印をお願いします。
- * 上記内容に関する説明が理解できない場合には、主治医にその旨申し出てさらに説明を受けるなどして、十分に理解されたうえで、署名あるいは記名・捺印を行って下さい。
- * 手術を承諾した後であっても、手術前であれば、いつでも、すでに行った承諾を撤回すると共に、その他の治療方法を選択することが可能です。
- * 治療法につき不明な点や心配なことがありましたら、いつでも主治医にご相談下さい。

旭川医科大学病院 説明場所 _____

説明日時：令和 年 月 日 時 分 ～ 時 分

説明者 職名 泌尿器科医師

署名または記名・捺印 _____ 印

患者の署名または記名・捺印 _____ 印

住所 _____

代諾者の署名または記名・捺印 _____ 印

続柄 _____

住所 _____

同席者署名または記名・捺印 _____ 印

続柄 _____

同席者署名または記名・捺印 _____ 印

続柄 _____